

令和2年度生涯学習部研修会（西濃地域）報告

日 時：令和2年12月20日(日) 10:00～13:00

場 所：WEB研修会（ZOOMを使用）

テーマ：古くて新しい理学療法技術としてのバイオフィードバック療法を見直そう

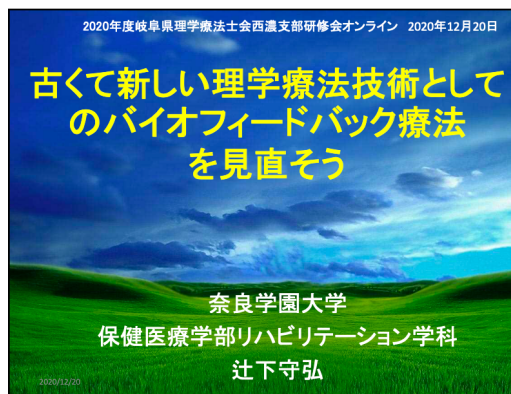
リモート講師1：辻下 守弘先生

（奈良学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科 学科長・教授）

リモート講師2：小出 紘靖先生

（大垣徳洲会病院 リハビリテーション科）

参加人数：11名（スタッフ含）



まとめ

- バイオフィードバック療法は、リハビリテーション医療の特殊性である運動学習に基づいた治療を支援するツールである。
- バイオフィードバック療法の原理は、内在的フィードバックを代償・補充し、外在的フィードバックを客観的な情報に変換して提示することである。
- リハビリテーション医療では、筋電図バイオフィードバックが最も用いられるが、心拍変動や皮膚音、皮膚抵抗なども応用可能である。
- ニューロフィードバックは、脳の働きを直接的にコントロールすることで、応用範囲が広い。

【当日の様子】

生涯学習部研修会（西濃地域）は、奈良学園大学辻下守弘教授によるWEB研修会で「古くて新しい理学療法技術としてのバイオフィードバック療法を見直そう」についてご講演頂きました。

筋電図バイオフィードバックだけでなく心拍数や骨盤底筋群に対するバイオフィードバックやニューロフィードバックまで幅広い範囲のご講演をいただきました。理学療法は学習を介した治療であり、バイオフィードバック療法により客観的な理学療法が提供できるとのお話がありました。正の強化随伴性に伴う学習プロセスを用いることで、明日からの臨床でも生かせる内容が多くありました。

多くの国内・海外論文を用いて、バイオフィードバック療法のエビデンスに関してもご講演をいただきました。エビデンスレベルの高いものから、研究の積み重ねが必要な内容までご講演頂きました。

最後に、貴重な時間を割いてご講演頂きました辻下先生、小出先生をはじめ会員の皆様、WEB開催に向け準備を含め本研修会参加にあたりご尽力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

生涯学習部 小久保 晃